

# 大和言葉での数え方と助数詞

現在私たちはものを数える時に、普通は算用数字をつかい、時によつては漢数字を使い、数字の表音はほとんど大昔に日本に入ってきた中国の吳音ごおんで、又時によつては大和数詞（大和言葉）で数えたりもします。

例えば算用数字で125個は、漢数字では百二十五個で、「ひやくにじゅうごこ」と発音します。（今日、百二十五を算用数字式に一一五と表示することがあります）

大和数詞では「ひやく　あまり　はたそ　あまり　いつつ」と表音します。意味については後述します。

ものを数える時はほとんど助数詞というその物（人、日、年齢等にも）の性質から来る言葉を後ろに付けます。例えば「個・つ」等で多数あります。

この漢数字と大和数詞とそれに続く助数詞とその数字の表音についての謂れを語りたいと思います。

その謂れ、規則を述べますと複雑に感ぜられるかもしだれませんが実は我々は日常こともなく会話で話しているのです。

算用数字、漢数字、大和数詞（大和言葉）での数字の表音については後掲の一覧表「日本語での数え方一覧」を参照しながらお読みください。

## ①算用数字（以後番号は一覧表記載の数字です）

1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・・・・・で表されます。これはアラビア数字、西洋数字です。明治以降に本格的に使われるようになります。我々が日常最も使用される文字です。

英語読みでは「わん」・「つー」・「すりー」・・・・・フランスはフランス語読みでドイツはドイツ語読みで各国で読みが違います。

日本では日本語読みとは言え、表音は元は中国からの吳音です。  
「いち」・「に」・「さん」・「し」・「ご」・「ろく」・「しち」・「はち」・「く」・「じゅう」・・・・「ひやく」・・・・「せん」・・・・「まん」・・・・「おく」・・・・と表音します。

表示も分かりやすく、計算には欠かせません。

② 漢数字

一・二・三・四・五・六・七・八・九・十・百・千・万・と続き表記されます。

古代に中国より伝わりました。朝鮮半島や中国との交際はこの字を取り入れないと出来ません。紀元前後に入つて來たでしよう。江戸時代までこの文字の使用がほとんどです。

二十は廿、三十は卅、四十は卅とも表記することもあります（十の倍数を意味しています）。

### ③ 漢数字大字

一・二・三・四・五・・・・の字画では改ざんされやすいので契約書や重要書類には壱・弐・参・肆・伍・陸・漆・捌・玖・拾の字が使用されました。漢数字大字と言います。

今でも壱・弐・参・拾は使われることがあります。

④ 漢数字の呉音

日本では漢字の読み方は漢音より先に呉音が先に入りました。現在では漢音での読み方が多くなっています。

中国での読み、表音は現在まで変遷し、地方や、時代によつて異なりますが、

ヒヤケ  
・  
・  
・  
セ  
ン  
・  
・  
・  
・  
・  
マ  
ン

**注** 呉音..漢字の読み方は中国では地方地方によつて異なり。時代によつて

の発音が入ってきました。

数字や仏教のお経の読み方は呉音が基本です。その後漢音も入ります。現在、日本での漢字の発音は呉音、漢音で、一部宋音もあります。

例、呉音—正月・東西 漢音—正解・西部

正は呉音では「しょう」、漢音では「せい」、西は呉音では「さい」、漢音では「せい」です。

##### ⑤呉音の転訛

「一一イチ」をイツ、「四一シ」を「ヨン」、「七一シチ」を「ナナ」、「九一ク」を「キュウ」

例えば「車 四百七十九台」はふつう「クルマ ヨンヒヤク ナナジュウ キュウ ダイ」です。呉音そのままで「クルマ シヒヤク シチジュウ クダイ」とは言いません。

使用例については後記⑦を参照ください。

これは聞き間違いのないように日本で転訛させました。

##### ⑥大和言葉の数詞 ⑦助数詞のつく大和言葉 個数の数え方・語尾に「つ」

漢字や呉音が入って来る前に日本固有の数字表音がありました。数詞といいます。

大和言葉、和音、訓読みとも言います。

ここでは大和数詞と言いましょう。

もともの大和言葉での数詞（数字）は「と（とお）」＝十までです。

「ひと」（ひ）＝一 「ふた」（ふ）＝二 「み」＝三 「よ」＝四 「いつ」  
＝五 「む」＝六 「な」＝七 「や」＝八 「こ」＝九 「と（とお）」＝十

です。

これ以上は輸入された漢数字を大和言葉に翻訳され使用されました。

二十は「はた」、三十は「みそ」、四十は「よそ」、五十は「ごそ」、六十は「むそ」、七十は「ななそ」、八十は「やそ」、九十は「は」は「ここのそ」、百は「もも」と表音します。

十代は「と」で二十代は「はた」と言い、三十代からは九十年代までは「そ」が後につきます。「そ」は十（じゅう）の意味です。

例えば十一は「と あまり ひとつ」・二十二は「はた あまり ふたつ」、二十六は「はた あまり むつつ」、三十一は「みそ あまり ひとつ」と数えます。

あまりは余りでプラスの意味です。

百は「もも」ですが二百は「ふたほ」と言い、以後九百までは、三百は「みほ」、四百は「よほ」、五百は「いほ」、六百は「むほ」、七百は「ななほ」、八百は「やほ」、九百は「ここのは」と百代の「もも」以外は「ほ」が付きます。

千は大和言葉では「ち」と言います。

二千は「ふたち」、三千は「みち」、四千は「よち」、五千は「いち」、六千は「むち」、七千は「ななち」、八千は「やち」、九千は「ここのち」

万は「よろず」、百万は「ももよろず」、千万は「ちよよろず」と言います。

古代古くも大和言葉でも「じゅう」を超える数の数え方もあつたかもしだれましたが、「もも」（百）、「ち」（千）、「よろず」（万）の大和言葉は本来はただ大きいを意味する言葉だつたでしょう。

日本では数字の表音は呉音と大和言葉の併用です。

## ⑦助数詞のつく大和言葉

古来、大和言葉では数字のみを数える時はひと・ふた・み・・・・・じゅうと表音していました。

日本では数を数える時には数詞（数字）の後に度量衡（尺寸間里 升斗石 夂貫）の単位とは別にほんどの物（人、日、日にちにも）の数の後に、形状、性質、様態を伝達する助数詞が付きます。

例えば、一丁、一杯、二匹、一枚とか三個です。これは漢数字の後の語に付ける例です。

大和言葉での数詞の後にも助数詞は付きます。

例えば、ひとひら（一枚）、ふたくち（二口）、みすじ（三筋）、ななたび（七度）、ここのか（九日）です。

漠然として数える時には「つ」を付けます。

ひとつ・ふたつ・みつ・よつつ・いつつ・むつつ・ななつ・やつつ・こここのつ・と（とお）

一個・二個・三個・四個・・・・と続く漢数字に対応する大和言葉です。

この大和言葉での数え方（大和数詞）は漢数字とその呉音の表音が主流となる

中で、すたれ行きますが、現在でも残っているものがあります。

例をあげます。

### ○人数

ひとり・ふたりで以後は三人・四人・五人・六人・・・・十人と漢数字とその助数詞の「人ーにん」が続きます。

古代の一人は「ひと たり」、二人は「ふた たり」・三人は「み たり」、四人は「よ たり」と順次大和数詞に「たり」を付して表音していましたが、「ひとりは」は「ひとり」、「ふたり」は「ふたり」と表音しやすいように転じさせました。

大和数詞の残存は「ひとり」・「ふたり」しか残らず。言いやすい漢数字とその助数詞の「人ーにん」で表音するようになつて行きます。今日でもそうですね。

### ○年数

「とせ」が後に付きます。

一年は「ひと とせ」、二年は「ふた とせ」、三年は「み とせ」・・・・百年は百歳で「ももとせ」、千年は千歳で「ちとせ」と続きます。「もも」も「ち」も大きな数字を表すおめでたい意味でも使われます。

漢字は「歳」を使います。

千歳（ちとせ）あめで使いますが、今日ではありませんかね。

### ○年齢

一歳は「ひとつ」、二歳は「ふたつ」、三歳は「みつつ」・・・・と続き、十歳は「と」で十一歳は「と あまり ひとつ」、十二は「と あまり ふたつ」と十九の「と あまり ここにつ」です。

二十歳は「はた ち」。三十歳は「み そ じ」、四十歳は「よ そ じ」と続きます。

百歳は「もも じ」又は「ももとせ」です。

「はた」（二十）、「みそ」（三十）、「よそ」（四十）も大和数詞でこの後の語に年齢を表す助数詞「ち・じ」が付きます。

現在は「はたち」（二十歳）とか「みそじ」（三十路）が使われるぐらいでしょうか。

## ○日にち

一日は「ついたち」、二日は「ふつか」、三日は「みつか」、四日は「よつか」、五日「いつか」、六日は「むいか」、七日は「なぬか」、八日は「ようか」で九日は「ここのか」、十日は「（とおか）」で、「ふつか」からは大和数詞の後に日にちを表す「か」の助数詞が付きます。

「ついたち」は月立ちの意味といわれています。

一日は江戸時代まで「朔日」（サクジツ）とも言われました。

「むいか」は「むつか」、「むゆか」からの転じ、「なぬか」は「なのか」から転じたものです。

「ようか」（八日）は「やか」、「ようか」から転じたもので、「はつか」（二〇日）は「はたか」からのてんじたものでしょう。いずれも表音しやすくするためでしょう。

十一日以降は「とあまりついたち」、「とあまりふつか」と言うところですが 現在十一日以後は「ジュウイチニチ」と漢数字に「ニチ」の助数詞を付け呉音読みの表音をします。二〇日は「ニジュウニチ」と言わず「はつか」です。

## ○稻。花

一束は「ひとたば」、二束は「ふたたば」、三束は「みたば」、四束は「よたば」・・・・と大和数詞に助数詞の「たば」が付き、五束以後は「ゴたば」・「ロクたば」・・・・と漢数字の表音に助数詞の「たば」を付けます。

大和数詞と助数詞は今でも一部残つており、日常会話でもつかいます。

しかしある一定の数字からは漢数字とその助数詞の表音（呉音）に変えます。

そこでもし大和数詞と助数詞で桁数の大きい数字を表音したらどうなるかの例をあげます。

稻 一千六百七十三束（1673束）

「いねちあまりむほあまりななそあまりみたば」

漢数字の表音では

「イネ セン ロツピヤク シチユジュウ サン タバ」  
ナナ

やはり漢数字の方が書きやすく、読みやすいですね。

#### ⑧助数詞のつく漢数字

漢数字とその助数詞について語ります。

助数詞は漢数字とともに中国より伝來したといわれています。現在、中国では量子と言います。名称は同じものもありますし異なる名称もあります。

漢数字の後に付ける助数詞の方が大和数詞とその助数詞より多いのです。

##### 例一

個（こ）——形あるもの

一個・二個・三個・四個・五個・六個・七個・八個・九個・十個

頭（とう）——牛、馬、蝶等

一頭・二頭・三頭・四頭・五頭・六頭・七頭・八頭・九頭・十頭

台（だい）——大型の家具や楽器、自動車、機械など

一台・二台・三台・四台・五台・六台・七台・八台・九台・十台

枚（まい）——紙、板、皿等平たい物。

一枚・二枚・三枚・四枚・五枚・六枚・七枚・八枚・九枚・

十枚

脚（きやく）——脚のある家具、机、椅子等

一脚・二脚・三脚・四脚・五脚・六脚・七脚・八脚・九脚・十脚

助数詞を付けない漢数字の表音は、一は「イチ」ですが「いつ」、四は「シ」ですが、助数詞が付きますと「よん」と言います。

七は呉音では「シチ」ですが大和数詞の「なな＝な」から借用して「なな」と言います。九は呉音では「ク」ですが漢音では「きゅう」と言います。いずれも漢数字と助数詞の連結で滑らかに表音させるために日本で転訛させたものです。

##### 例二

匹 (ひき) —魚・動物など

一匹・二匹・三匹・四匹・五四・六匹・七匹・八匹・九匹・十四匹

本 (ほん) —細長い物・手紙・芝居等

一本・二本・三本・四本・五本・六本・七本・八本・九本・十本

杯 (はこ) —せかぢやき・ふね・いか等

一杯・二杯・三杯・四杯・五杯・六杯・七杯・八杯・九杯・十杯

「は」から始まる助数詞は一、二、六、八、十に付くときは濁音、半濁音となります。いの方が連結が滑らかなのでしょう。

漢数字とアラビア数字との混合型で表示 カンマが現在主流つか。

例

(漢数字) (アラビア数字型漢数字) (アラビア数字)  
一百三十個 一一 三〇 個一 230個

### ⑨助数詞のない英語

英語には助数詞はありません。もちろん度量衡（メートル・リットル・グラム等の単位は後に付けます。

○物、日、人—数え方は頭に a, one, two, three……が付く名詞がつながり、名刺の語尾に s 又は複数名詞となります。

- a book, two books, three books…….
- a man, two men, three men…….
- one day, two days, three days…….

○助数詞に似た表現もありおも。

年齢—例えば 50 歳は fifty years old

これは年齢と年との区別からコトモド (fifty years も二ペーパー 50 年間)

水物—入れ物を頭に付けます。 One cup of coffee

紙—a sheet of paper ↗れば paper には新聞とか書類の意味があることから  
の区別でしよう。

いざれにしましても、漢数字と大和数詞につく多くの助数詞を覚えなければなりません。

その表音は一応規則正しのですが、不規則なところもあります。  
現在、日本人は親から、学校で教えられ、難なく話します。  
しかし、外国人が日本語を習う時は大変だと思います。

一〇一六年一月十一日

以上

梅  
一声

日本語での数え方一覧

①算用数字	漢数字				⑥大和言葉の数詞	⑦助数詞のつく大和言葉 個数の数え方・語尾に「つ」
	②漢数字	③漢数字大字	④呉音（音読み）	⑤変形音		
1	一	壱	イチ	イッ	ひと=ひ	ひとつ
2	二	弐	ニ		ふた=ふ	ふたつ
3	三	參	サン		み	みっつ
4	四	肆	シ	ヨン	よ	よっつ
5	五	伍	ゴ		いつ=い	いつつ
6	六	陸	ロク		む	むっつ
7	七	漆	シチ	ナナ	なな=な	ななつ
8	八	捌	ハチ		や	やっつ
9	九	玖	ク	キュウ（漢音）	ここの=こ	ここのつ
10	十	拾	ジュウ	ジュツ	と（とお）	と（とお）
11	十一		ジュウイチ			とあまり ひとつ
20	二十（廿）		ニジュウ			はた
21	二十一		ニジュウイチ			はた あまり ひとつ
30	三十（卅）		サンジュウ			みそ
31	三十一		サンジュウイチ			みそ あまり ひとつ

①算用数字	漢数字				⑥大和言葉の数詞	⑦助数詞のつく大和言葉 個数の数え方・語尾に「つ」
	②漢数字	③漢数字大字	④呉音（音読み）	⑤変形音		
200	二百		ニヒヤク			ふたほ
300	三百		サンビヤク			みほ
1000	千	仟	セン			ち
2000	二千		ニセン			ふたち
10000	万		マン			よろず
100000000	億		オク			おく

⑧助数詞のつく漢数字ー本文記述

⑨助数詞のない英語ー本文記述